活動の概要

2025 年度は、京都での二人展「Unreal-real 輪廻重生」ではキュレーター兼参加作家として、写真における現実と虚構の境界を探究し、KYOTOGRAPHIE 2025 の KG+ DISCOVERY Award ファイナリストに選出されるなどの評価を得た.

また、同展において科研費研究「人形写真の鑑賞時における類似的表象の見分けの判断に関する研究」の予備実験を実施した。

学内外のプロジェクトとしては、微生物クマムシの観察を通してアート作品を発想する「Extreme Biologies」を中心に活動した。IAMAS OPEN HOUSE でのワークショップ「同じクロレラを飲む」(参加者 60 人)、スイトピアセンターでの子供向けプレワークショップ「スイトピアでクマムシを見つけよう！」および展覧会開催を通して、人間と微生物の関係性や極限環境における生命について参加者とともに思考を共有した。これらの活動は複数のメディアで紹介された。また、プラネタリウムでのライブパフォーマンス「NxPC.Live EXTREME COSMOLOGY」など、複数回 NxPC.にも VJ で参加した。

さらに、台湾でのノートン晶個展「青之距離」のキュレーション、京都芸術大学特任准教授として 26 人の副査を務めるなど、国内外での教育・キュレーション活動にも取り組んだ。加えて、ぎふ美術展企画委員(写真部門)として地域の芸術文化振興にも貢献した。

学内では、主指導学生には毎週、副指導の学生まで含めたレクチャー形式のゼミは 2,3 週間に一回の頻度で指導を行なった。また博士１年の山口達典の主催する輪読会を教員室で開催し、共同で修士学生の自主学習を促した。学校運営としては教務委員長、M2 学年担当を務めた。

学内外で携わったプロジェクトなど共同活動の報告とそこでの役割

1　IAMAS OPEN HOUSE ワークショップ「同じクロレラを飲む」

期間: 2025 年 7 月 19 日～20 日

役割: 企画・実施

《同じクロレラを飲む》スクリーンショット

微生物クマムシの観察を通してアート作品を発想するプロジェクト Extreme Biologies(代表者：カストロ准教授、分担者：前林教授、菅)の企画として、IAMAS OPEN HOUSE にワークショップ「同じクロレラを飲む」をプロジェクトメンバーの学生たちと実施した。餌としてクロレラ(藻)が与えられたクマムシの隣で、人間たちも健康食品のクロレラジュースを飲むことで、同じ食べ物を食べるとい

う行為を通して、よりクマムシを理解しようという試みだ。約 20 億年前に誕生し、宇宙食としても注目されるクロレラを介して、60 人の来場者とともに、人間と微生物の関係性や宇宙環境で生き延びる未来について思考を共有した。

2　スイトピア×イアマス連携事業 プレワークショップ「スイトピアでクマムシを見つけよう!」

期間: 2025 年 9 月 21 日(日)・23 日(火・祝) 14:00〜15:20 ※2 回連続

会場: 大垣市スイトピアセンター こどもサイエンスプラザ 2 階 実験室

対象: 小学生とその家族 5 組

役割: 企画・実施

12 月開催予定の「エクストリーム・バイオロジーズ展」に向けたプレワークショップとしてプロジェクトメンバーと共に、子供向けのクマムシの観察教室を 2 日間で実施した。参加者とスイトピアセンター周辺でクマムシを採集し、顕微鏡を用いて観察を行った。「最強生物」として知られるクマムシを実際に発見・観察し、スケッチを描くことで、微生物への親しみと理解を深める機会となった。

この活動は中日新聞(2025 年 9 月 27 日号 岐阜版)、大垣ケーブルテレビ「デイリーUP Plus」(9 月 25 日放送)などで紹介された。

《スイトピアでクマムシを見つけよう！ワークショップ記録》スクリーンショット

3　スイトピア×イアマス連携事業「エクストリーム・バイオロジーズ展」

期間: 2025 年 12 月 6 日〜12 月 14 日

会場: スイトピア

出展: カストロ准教授、前林教授、M1 吉本梓

役割: 企画・展示

Extreme Biologies プロジェクトで展覧会を開催した。IAMAS OPEN HOUSE でのワークショップの記録を含む展覧会を開催した。上記の二つのワークショップをそれぞれ映像インスタレーションとして再構成したほか、生成 AI を使用した映像作品《パワーオブクマムシ》を展示した。

《パワーオブクマムシ》インスタレーション

4　NxPC.Live EXTREME COSMOLOGY

日時: 2025 年 12 月 11 日

出演: 前林明次、菅実花

会場: スイトピアセンター コスモドーム

役割: VJ

プラネタリウムという没入空間において、50 人の来場者に向けてラ

イブパフォーマンスを行った。オイルや絵の具を用いたリキッドライティングの映像をもとにリアルタイムに生成 AI によってイメージを変化させ、映像と音が融合したパフォーマンスを行なった。

学外で単独で行った活動

1　科研費研究:人形写真の鑑賞時における類似的表象の見分けの判断に関する研究

本研究ではデバイスを用いて鑑賞者が「人形写真」のどの部分を見て人間と人形を見分けているのかを分析し、従来の「直感的・感覚的にそう感じた」以上の判断の根拠を示すことを目的としている。2025 年度は、二人展「Unreal-real 輪廻重生」において視線計測ができるアイトラッキングメガネを装着した 5 人の鑑賞者に展覧会を見てもらい、「人形写真」のどの部分を見て人間と人形を見分けているのかを分析した。

2　寄稿

菅実花「I Won't Let You Go(あなたを離さない)」『人形玩具研究-かたち・あそび-』vol.35、日本人形玩具学会、2025 年 3 月 31 日

3　二人展「Unreal-real 輪廻重生」

会期: 2025 年 4 月 12 日〜5 月 12 日

会場: Kurasu HQ UG（京都）

参加作家:顔鵬峻、菅実花

役割: キュレーター兼参加作家

顔鵬峻との二人展を、キュレーター兼参加作家として企画・開催した。両者の作品は、写真の「事実の痕跡(index)」性がありながら、認識されるイメージと実際の撮影現場に生じるズレを共通項としている。展覧会タイトルの「Unreal-real」は虚構的な現実を、「輪廻重生」は生と死が多層的に循環する世界を示す。

元製薬会社の地下室という会場の特性を活かし、日常と地続きにある死を見つめ、残された者が何を見出し、いかに表現しうるのかをテーマに作品を展開した。

Exhibition View

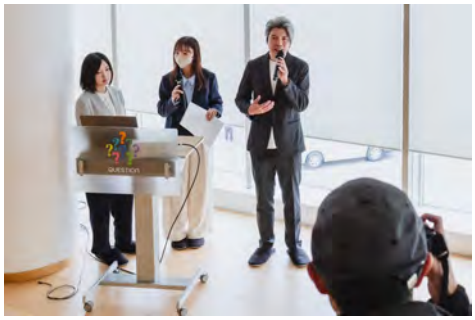
4 KG+ DISCOVERY Award プレゼンテーション

日時: 2025 年 4 月 18 日

会場: QUESTION 4F Community Step

主催: KYOTOGRAPHIE

KYOTOGRAPHIE 2025 の関連企画として、KG+ DISCOVERY Award のプレゼンテーションに参加し、ファイナリストに選出された。



プレゼンテーションの様子

5 キュレーション活動

ノートン晶 個展「青之距離」

会期: 2025 年 11 月 7 日〜23 日

会場: 1839 當代藝廊(台湾)

役割: キュレーター

女性性の解放をテーマに古典技法でヌードを表現したノートン晶の個展「青之距離」をキュレーションした。

学外での教育活動・社会貢献

1 京都芸術大学

役職: 特任准教授

大学院（通信教育）写真・映像領域の論文・作品指導にあたり、26 人の副査を務めた。

2 清流の国ぎふ芸術祭 ぎふ美術展 企画委員会

役職: 企画委員(写真部門)

期間: 2025 年 11 月 1 日〜

令和 7 年度ぎふ美術展の企画委員として、写真部門の運営に携わる。

メディア掲載

1 京都新聞「【今週のギャラリー評】現実と虚構の境界 漂うものを活写 菅実花・顔鵬峻展」2025 年 4 月 19 日掲載

2 玄光社「春の京都が写真一色に染まるイベント KYOTOGRAPHIE 2025 レポート! KG+篇 その 3」2025 年 5 月 28 日掲載

3 小勝禮子「ウェブサイト『アジアの女性アーティスト:ジェンダー、歴史、境界』運営の目的と今後について」『REAR』51 号、芸術批評誌「リア」、2025 年 3 月 31 日(菅の参加展覧会に関する言及と作品図版掲載)